

特別講演

演題

SA・TAと共に授業経験を作るとは

講師：京都大学大学院 教育学研究科 准教授
佐藤 万知 先生
(さとう まち)

【講師紹介】

京都大学大学院教育学研究科准教授。2020年4月より現職。主に、高等教育学コース（大学院）での教育活動および院生指導に携わる。前職では、広島大学高等教育研究開発推進センターにおいて大学院教育を担当すると同時に、HIRODAI TA制度の立ち上げから関わり、資格付与のための授業「大学教員養成講座（日英）」を担当した。東南アジア研究のバックグラウンドを持ち、質的研究による高等教育研究を実践している。現在、大学新聞（大学新聞社刊）で「関係性から考える大学のアレコレ」を連載中。



【講演要旨】

学生がSA（Student Assittant）やTA（Teaching Assistant）といった指導補助者として授業に関わる機会が増えてきていますが、SAやTAを育成し、一緒に授業を行う、ということについてどのように考えればいいのでしょうか。これまでは、SAやTAに必要な能力やスキル、態度を明らかにし、それを研修という形で育成するモデルが多く見られ、検討、実施されてきました。これらの取り組みが一定の成果をあげる一方で、実際の授業における働き方は多様で、良いSA、TAとしての働き方は、主に活動をする場である授業における授業担当教員、履修学生、SAやTAとの関係性によって形成されていくと考えられます。そのような考えに立つ時、授業担当教員、SAやTA制度を維持する組織や育成を担当するセンター等はどう関わっていくことが望ましいのでしょうか。

本講演では、良い授業経験を作ろうという気運を作るための仕掛け、及び、その目標を授業担当教員、指導補助者、そして履修学生が共有できるような関係性のあり方と、その関係性を作るための仕掛けについて、具体的な事例をみながらみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。